

## 青森大学・青森短期大学における危機管理に関する規則

### (目的)

- 第1条 この規則は、大学において発生する様々な事象に伴う危機に迅速かつ的確に対処するため、青森大学及び青森短期大学(以下「本学」という。)における危機管理及び危機対策等を定めることにより、本学の教職員及び学生等の安全確保を図るとともに、大学の社会的な責任を果たすことを目的とする。
- 2 本学の危機管理及び危機対策については、他の法令等並びに本学の規則等に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

### (定義)

- 第2条 この規則において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。
- (1) 職員及び学生等 本学の教職員並びに本学の学生をいう。
- (2) 危機 災害及び火災のほか、テロ、重篤な感染症などの重大な事件や事故で職員及び学生等の生命若しくは身体又は本学の財産、名誉若しくは組織の存続に重大な被害が生じ、又は生ずるおそれがある緊急の事象及び状態をいう。
- (3) 危機管理 危機が生じた際にどのように対応すべきか組織を指導し、管理する調整された活動をいう。
- (4) 危機対策 危機発生の予防及び被害軽減のために平常時から行う措置並びに危機発生時において被害を最小限に抑制するための緊急の対応をいう。
- (5) 部局等 学部、大学院、短期大学、事務局、附属図書館及び付属研究所をいう。

### (学長等の責務)

- 第3条 青森大学学長(以下「学長」という。)は、本学における危機管理及び危機対策を統括する責任者であり、青森短期大学学長と連携をとって危機管理を推進するとともに、必要な措置を講じなければならない。
- 2 学部長、研究科長、短期大学部長、事務総局長、図書館長及び研究所長は、学長を補佐し、危機管理の推進に努めなければならない。
- 3 部局等の長(短期大学にあっては部長)は、当該部局等における危機管理及び危機対策の責任者であり、全学的な危機管理体制と連携を図りつつ、当該部局等の危機管理を推進するとともに、必要な措置を講じなければならない。
- 4 職員は、その職務の遂行にあたり、危機管理に努めなければならない。

### (学長の代理者)

- 第4条 学長が出張等により不在の場合並びに学長に事故があるときは、学長が指名するものが代理者としてその職務を代行する。

### (平常時における危機管理)

- 第5条 学長は、平常時より、全学的な危機管理を統括するとともに、必要な措置を講ずるものとする。
- 2 部局等の長は、次の各号に掲げる危機管理を行うものとする。
- (1) 情報の収集、分析及び対応策の検討
- (2) 職員及び学生等に対する適切な情報提供

- (3) 個別マニュアル等の作成、見直し
  - (4) 職員及び学生等の危機意識の涵養を図る研修会及び訓練の実施
  - (5) 緊急時の危機対策の組織体制、活動内容及び意思決定づくり
  - (6) 緊急時の情報伝達方法の整備
  - (7) その他危機管理に係る必要な事項
- (危機管理委員会)

第6条 学長は、本学における危機管理の実施に関し必要な事項を検討するため、危機管理委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

- 2 委員会の運営等に関し、必要な事項は別に定める。
- (危機に関する通報等)

第7条 教職員及び学生は、緊急に対処すべき危機が発生し又は発生するおそれがあることを発見した場合は、部局等の長に通報しなければならない。

- 2 前項の通報を受けた部局等の長は、速やかに当該危機の状況を確認し、必要な措置を講じなければならない。
- (危機対策本部の設置)

第8条 学長は、危機が発生し又は発生するおそれがある場合において、危機対策を講じる必要があると判断する場合は、速やかに危機対策本部(以下「対策本部」という)を設置するものとする。

- 2 前項の対策本部は、原則として学長室に設置するものとし、学長室に置くことができない場合は、状況に応じて他の部局等に設置するものとする。
- 3 対策本部の構成は、次のとおりとする。
  - (1) 本部長は、学長をもって充て、対策本部の業務を総括する。
  - (2) 副本部長は、学部長、研究科長の中から本部長が指名する者をもって充て、本部長を補佐する。
  - (3) 本部長は、各部局の長等とする。なお、必要に応じて、学長が指名するものを加える。
- 4 対策本部の業務については、学長が状況に応じて、学校法人青森山田学園理事長に報告するものとする。
- 5 対策本部の事務は、事務局が主管する。
- 6 対策本部の組織及び緊急連絡体制等の必要な事項は、学長があらかじめ定め、職員に周知しておくものとする。
- 7 対策本部は、本部長が危機の終息の宣言を行ったときに解散するものとする。

(危機対策本部の権限)

第9条 対策本部は、本部長の指揮の下に、迅速に危機に対処しなければならない。

- 2 教職員は、対策本部の指示に従わなければならない。
- 3 対策本部は、その事案処理にあたり、本学の学内規則等により必要とされる手続きを省略することができる。

(危機対策本部の業務)

第10条 対策本部の業務は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 危機の情報収集及び情報分析
- (2) 危機において必要な対策の決定及び実施
- (3) 職員及び学生等への危機に関する情報提供
- (4) 危機に係る関係機関との連絡調整

- (5) 危機に関する報道機関への情報提供
- (6) 部局等の危機対策本部との連携に関すること。
- (7) その他危機への対応に関して必要な事項  
(部局等における危機対策本部)

第 11 条 部局等の長は、危機が発生し又は発生するおそれがある場合において、危機対策を講じる必要があると判断する場合は、当該部局の危機対策本部(以下「部局本部」という。)を設置するものとする。

2 前項の部局本部を設置したときは、遅滞なく学長に報告するとともに、その内容、対策方針及び対策状況等について、随時、学長に報告するものとする。この場合において、学長は、当該危機が全学に影響を及ぼすものと判断するときは、対策本部を設置し、全学的に対応することができる。

3 部局等の長は、当該部局等のみに係る危機であっても、全学的に対応すべきものと判断する場合は、学長に対し対策本部の設置を申し出るものとする。

4 部局本部の組織及び業務並びに緊急連絡体制等の必要な事項は、部局等の長があらかじめ定め、部局等の職員に周知しておくものとする。

5 部局本部は、部局等の長が危機の終息の宣言を行ったときに解散するものとする。

(雑則)

第 12 条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

この規則は、平成 22 年 10 月 20 日から施行する。